

トヨタが春闘から“降板”する意図は 非公開のベア内訳

3月14日は春闘の集中回答日でした。しかしトヨタの労使交渉について波紋が広がっています。

今春闘でのトヨタ労組の要求はベースアップ月3000円でした。これに対する会社の回答はベアの具体的額を示さず、ベアと定期昇給、自己研鑽の費用補助、期間従業員の家族手当などを合わせて平均1万1700円・「3.3%」でした。具体的額については労組執行部だけに伝えられ、会社の役員にも緘口令が敷かれました。自動車総連など上部組織にも報告されません。組合員にベア額が知らされないということは春闘の主人公はだれなのでしょうか。

トヨタは16年1月から賃金体系を変更しました。年齢が低い労働者に対しては競争を煽り、高齢者は雇用の調整弁の位置づけです。

それ以前から労働力不足が深刻化し、さらに事故が続発した原因は人員不足にあることが明らかになると、非正規労働者や期間従業員の正規労働者化がすすめられるなどの離職防止策がとられました。その原資は賃金体系の変更によって生み出されたものです。

人員不足は続いています。今年の3.3%には非正規労働者を離職させないための日給・時給アップが含まれていたと予想されます。正規労働者の平均年収が770万円というなかで、賃金改正においては非正規労働者の処遇に重点をおいたというなら歓迎されるべきことです。

「努力は報われなくても常に危機感をもって働け」

しかしトヨタ労組の対応は「屈服」でした。

トヨタの18年3月期の純利益見通しは、前年より3割多い2兆4千億円で過去最高です。

16年からの賃金体系変更は、役割や能力給の配分を増やした、「成果」を含んだ業務への貢献度を賃金に反映するというものでした。

では会社はそれをちゃんと履行したのでしょうか。

3月7日に労使双方の幹部ら約350人が一堂に会して開催された第3回労使協議会において、これまでの実績をアピールしてきた労組側に豊田社長が答えます。

「トヨタという家族の長として、その愛ゆえに率直に申し上げる」と切り出しました。「あえて厳しい言い方をすると、100年に1度の危機感を本当に持っているならば、自分たちの過去の成果に目を向けている暇はありません」「皆さんから『(仕事を) やった、

やった』という声、その結果として『要求に応じてくれ』という主張を聞く度に、私は『一緒に闘ってくれないのだろうか』と寂しい気持ちになっていた」

「次の100年も自動車メーカーがモビリティ（移動手段）社会の主役を張れる保障はどこにもない。『勝つか負けるか』ではなく『生きるか死ぬか』という瀬戸際の戦いが始まっている」

危機感を煽りました。妥結後に記者会見した上田達郎専務役員は「組合員が一体となって頑張らなければならないという前向きなメッセージだ」と説明しました。

トヨタでは1962年の「労使宣言」締結以降社長は必ず出席します。今は全役員が出席します。そして協議会は会社からの経営の説明会となります。

豊田社長の「自分たちの過去の成果に目を向けている暇はありません」は遠い過去の成果ではありません。営業利益2兆2000億円をあげている現在の成果です。しかしそれに拘泥しないで生きるか死ぬかの危機感を持って煽ります。

結局、賃金は貢献度を評価して決定するといいいながら、“会社の都合（主張）”によって無視されたということです。労働者に努力は報われなくても常に危機感をもって働けという恫喝です。

多額の内部留保金を保持し、さらに2兆4千億円の純利益を上げているなかで、未知（未来）の問題に対して「勝つか負けるか」「生きるか死ぬか」と危機感をあおる行為は経営陣の任務放棄の宣言です。

しかし労働組合が恫喝に簡単に屈するところに使用者主導の労使一体の関係性の実態が表れています。

関連会社の労使の不安

トヨタのジャスト・イン・タイム生産方式は関連会社、子会社・孫会社、さらにその下請けが存在することで維持されています。車の75%の部品は仕入れ先が支えています。トヨタとトヨタ労組はそのなかで君臨しています。トヨタグループの労使交渉は、トヨタがリードし、関連会社はその影響を受けざるをえません。労使それぞれでの一体感の表明でもありました。

例年ならトヨタの妥結を踏まえてどれくらいのマイナス幅で決着するが争点でした。しかし今春闘は部品大手3社の妥結が先行しました。車部品大手のデンソー、アイシン精機、豊田自動織機の各労組はいずれもベースアップ3000円の要求を掲げていましたが、3月12日、前年同額の月1500円で妥結しました。

昨春闘は、トヨタはベア月1300円でしたが、グループの3割の組合がトヨタを超えるベアを獲得しました。人材不足を解消するための対応でもありました。しかしトヨタは、そのようなゆとりがあるなら部品の納品価格を減額しろと要求したといえます。

今年の春闘は関連会社等も別個に対応しろという表明でもありました。

豊田社長はトヨタ労組に「一緒に闘ってくれないのだろうか」と呼びかけましたが、「一

緒」に関連会社等は含まれるのでしょうか。関連会社等がトヨタと運命共同体で居続けて大丈夫なのか、そのうち切り捨てられるのではないかという危機感を抱くのは当然です。

トヨタ労組がトヨタと「一緒に闘う」方向を強化すると、今後、関連会社の労働組合との連携の弱体化に進む可能性もでてきます。トヨタ労組が本気で関連会社の労働組合と一緒に闘おうと呼びかけるなら、格差是正の要求は不可欠です。

今年の春闘はその分水嶺でもありました。

今後のトヨタの立ち位置は

今春闘におけるトヨタの妥結内容非公開は、これだけでとらえることができません。トヨタは来春以降も非公開を続ける方針を表明しています。春闘における相場先導役からの“降板”の宣言です。

14年の春闘から「官製春闘」と呼ばれるようになりました。発端は、13年9月20日に首相官邸の主催で、政府・経済界・労働界の合意形成を図る「経済の好循環実現に向けた政労使会議（政労使会議）」が開催され、政府が経済界に賃上げを要請したことにより、政労使会議はその後も継続し、今年で5年目になります。

本来、ベースアップなどは労使間の協議で決定されるものです。しかし労働組合の力が弱体化するなかで、一方の経団連も自立して政策を提言する力を失っていました。そのなかで経済成長を政策に掲げる安倍政権は消費力を増大させるために労使関係・ベースアップに介入し、主導します。労使双方が労使関係を政府に依存する関係になっています。

安倍首相は今年「3%以上」を要請しました。

経団連に副会長を送っているトヨタは首相の要請を断ることはできません。しかしトヨタは、今までのような政労使の関係を維持するつもりはありません。今後は自分たちから政労使を動かそうとしています。それが今年の春闘です。

3月11日付の朝日新聞「平成経済 第2部 昭和モデルの崩壊7」のなかで、大橋光夫経団連元政治委員長は「日本の産業構造におけるサービス産業の比重は高まった。経団連は製造業中心から脱皮し、成長するIT産業や、消費者に密着したサービス産業の意見も反映できる組織にならなければならない。そうすれば将来、楽天などがつくる新経済連盟（新経連）などと一緒にすることも可能ではないか」と語っています。経団連の現在からの転換を予想しています。

新経連は、2012年6月1日に発足したサービス産業を中心の新興企業の集まりで会員企業は約500社、会長は楽天の三木谷浩史社長です。

同じ記事の中で、古賀伸明連合会長は「労働運動は『資本家が労働者を搾取する』という考え方のもと、労働者が資本家に抵抗することから始まった。時代の変遷とともに、これが『対立』『調和』『参加』と変わっていったが、冷戦の終結がこの流れを決定づけた」と語っています。

「対立」「調和」はお互いの関係性の問題です。トヨタの「労使宣言」は「調和」だったのかもしれませんが。しかし現在のトヨタ労組の立ち位置はまさしく「参加」です。「参加」は一方からもう一方への移動がともなう立ち位置の変動で、一方的歩み寄りです。労働組合の自立を喪失させてしまいました。これでは本気で会社と対峙することはできません。

2月18日の朝日新聞「平成経済 第2部 昭和モデルの崩壊4」の新経連に関する記事の中で、牛尾治朗経済同友会元代表幹事は「いまや売上高の半分以上を海外で稼ぐ企業も多い。一国の枠内で、制度や戦略を考える時代ではなくなり、財界や行政が立ち入る余地は少ない。若い経営者が直接、政権とやり取りする時代になった」「次の時代、財閥そのものが、いらなくなるかもしれない」と語っています。

新経連が労使関係や処遇等に関心を示すとは思われません。経営者は政府や労働組合からの“自立”を主張し、労使関係は否定されます。トヨタの春闘回答での具体的内訳を示さない回答は、春闘からの“降板”をにおわせています。春闘の終焉を誘導しかねません。

権利紛争や利益紛争の復活を

しかし労働者は権利紛争や利益紛争を止めることはできません。権利紛争を止めたことが過労死等を生み出しています。トヨタでは裁量労働制の名のもとに月60時間の残業、実際はそれを上回るサービス残業が強制されています。利益紛争を放棄すると、富むものはますます富み、貧困者がますます貧困に陥る社会となり、格差が拡大して生存権が脅かされます。

労働運動は、生存権の要求を掲げ、貧困状況から抜け出すための社会運動として始まりました。かつての春闘はベースアップだけでなく、さまざまな権利紛争や利益紛争を盛り込んで闘い、成果をあげてきました。

「調和」「参加」ではなく、自立した日常の活動を積みあげるなかで労働組合運動の再構築を急ぐ必要があります。